

令和2年度第1回高知西病院地域協議会 議事概要

【構 成 員】	(行政)	川内 敦文	(高知県健康政策部医療政策課 課長)
		池 堤	(高知市健康福祉部地域保健課 課長)
	(医師会)	野並 誠二	(高知県医師会 副会長)
		藤井 貴章	(高知市医師会 理事)
	(関係医療機関)	先山 正二	(国立病院機構高知病院 院長)
	(利用者)	土居 怜子	
	(高知西病院)	山田 光俊	(院長)
		梶谷 充	(副院長)
		中路 達也	(事務長)
		原 いつみ	(看護部長)
		川村 佐知	(副看護部長)

【開催日時】 令和2年9月24日(木) 13:00～14:00

【開催場所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院 健康管理センター1階小会議室

- 【議 題】
1. 当院運営実績(経営状況)について
 2. 令和元年度の病院運営に係る自己評価について
 3. 看護部門の活動状況について
 4. 地域包括ケア推進室の取り組みについて
 5. その他

【出席者】 (行政) 高知県医療政策課・宮地課長補佐(代理出席)
高知市地域保健課・池課長
(医師会) 高知県医師会・野並副会長、高知市医師会・藤井理事
(関係医療機関) 国立病院機構高知病院・先山院長
(利用者) 土居 怜子
(高知西病院) 山田院長、梶谷副院長、中路事務長
原看護部長、川村副看護部長
豊永事務長補佐(総務企画)

【概 要】

1. 高知西病院地域協議会設置要綱について

地域協議会構成員の一部変更のため、地域協議会設置要綱(目的・運用・構成員等)及び議事概要・意見に対する対応状況等の公開(当院ホームページ)について説明する。

2. 当院運営実績(経営状況)について

令和2年9月現在の病院運営状況(施設基準届出状況、職員数、患者数、健診運営状況(R2.8月迄)、収支状況(R2.8月まで)等)について説明する。

新型コロナウイルス感染症の影響により患者数がかなり減少している等、全国的に見てもかなり厳しい状況であることを説明する。

3. 令和元年度の病院運営に係る自己評価について

令和元年度の病院運営に係る自己評価（経営面、医療・介護面）、病院運営に当たり特に注力したこと及びその成果、病院運営における困難と対処、病院運営に当たっての反省点と改善点について説明する。

病院運営に当たり特に注力したこととしてバスキュラーアクセスセンターの開設があり、現在、バスキュラーアクセスセンターの受診について高知県内の各病院からの連携要請が来ており、現在週1回の診療が行われている等、高知県のシャント管理に特化した施設として透析医療に取り組んでいること等を説明する。

4. 看護部門の活動状況について

2020年度の看護部門の目標、地域連携室の活動状況、回復期病棟の取組について説明する。地域連携室の入院相談件数、入院支援加算算定件数、介護支援連携指導件数を提示し状況説明。回復期病棟の取組として院内デイケア実施を紹介した。

また、特定行為研修の進捗状況、認定看護師の取得状況を説明した。

【質疑応答】

院内デイケアが一般病棟まで広がるとどのようなイメージになるのか。

→現在は、食堂に集まって折り紙や歌、体操をしたりとかしている。看護師、リハビリの職員が中心となって行い週に2～3回、5名～10名で密にならないよう実施していく。

院内デイケアのように認知症への取組を行っているが、回復期リハ病棟にリハ目的の認知症患者を積極的に受け入れていく方向なのか。

→認知症のあるなしに関わりなく、回復期の対象患者は受入していく方向。

受入については医師の判断で行う。

転院受入65%は高いのか、低いのか。

→受入出来なかった理由は様々であるので高い、低いで判断できないが、他施設への入院が理由であれば、もっと早く当院が受入の返事をしていれば受入に繋がったケースもあり対象外以外について受入率を上げていきたい。

5. 地域包括ケア推進の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができていない状況を説明する。

6. その他（ご意見等）

○地域医療構想調整会議の開催について

（出席者）公的病院の再編・統合については、国より再検討の通知が出ているので、地域医療構想調整会議の開催は国の指針が出てからになる。

（当院）地域包括ケア病床の病棟化などを進めていく場合、地域医療構想調整会議の承認が必要であり開催されないと運営の見直しが前に進まないのでもよろしくお願ひしたい。

（出席者）地域医療構想調整会議の開催については個別に相談させていただく。

○災害時等の透析医療について

（出席者）医療行政についての協力に感謝している。病院の3つの柱としてリハビリテーション透析、健診を挙げられているが、特に透析医療について救護病院として災害に向けて何か訓練や地域連携などの取組がありましたらご教示いただきたい。

（当院）災害時の透析の継続については他の透析医療機関や、透析医会とも相談しながら進めていきたい。院内では緊急時のアクションカード作成や、透析患者の連絡先を把握したり、個別に災害時の対処の指導を行っている。

（当院）新型コロナウイルス感染症が透析患者には出ていないが、出た場合の対処としては何か変更がありましたか。

（出席者）陽性患者が出た場合、2病院が透析を行う対処機関としている。

○病院の連携について

(出席者) 病院の特色を生かし工夫して取り組まれている。同じ地域の医療機関として各病院の強みを活かし今後一層協力し合っていきたい。

(当院) よろしく願いいたします。

○新型コロナウイルス感染症発生時の調理について

(当院) 調理の職員が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者等となった場合は調理場は使用していいのでしょうか。

(出席者) 消毒をして使用可能と思われそうですが、人員面で運営は難しいのではないかとと思われる。

(当院) 委託でなく院内で調理している場合、人員不足により調理できなくなった場合何かサポート体制はありますか。

(出席者) かつては医師会で災害に備えてエリアでグループを組んだこともあるが、委託が増えたことで委託業者による地域協力へと変化している。全くないわけではない。

(出席者) 県の栄養士会で栄養士が県内で連携していることもあるので持ち帰って確認してみます。